鳥取県高等学校 PTA 連合会

10月1日/2016

No. 83

鳥取県高P連会報

Contents

□高P連会長挨拶 …… 1
□県立高校における外部支援者
～「チーム学校」を目指して～…… 2
□PTA活動紹介
智頭農林高校・境高校…… 3
□平成28年度総会報告
県立高校ＰＴＡ会長・校長名簿…… 4
□平成28年度事業計画・収支予算書
中四国（香川）大会報告…… 5
□全国（千葉）大会報告
平成29年度各種研究大会等の予定 … 6

発行所 / 鳥取市扇町 21
県民ふれあい会館内
鳥取県高等学校 PTA 連合会
ＴＥＬ / 0857-27-0730

「拓きゆく日本の未来」

鳥取県高等学校ＰＴＡ連合会長　勢川洋之
（鳥取県立鳥取西高校ＰＴＡ会長）

平成28年6月4日に開催された鳥取県高等学校ＰＴＡ連合会総会で承認をいただき、平成28年度の県高Ｐ連会長を務めさせていただいています鳥取西高等学校ＰＴＡ会長の勢川洋之です。副会長を始めとする役員の皆様、事務局はもとより、各単位ＰＴＡの皆様と当連合会運営の方向性を確認しながら進めています。どうぞよろしくお願いいたします。

当連合会は、県内各高等学校ＰＴＡ相互の緊密な連携協調を図り高等学校教育の振興上の諸問題を研究協議し、その解決促進に寄与するとともに生徒の健全な育成・福祉の向上を図ることを目的として六十七年間運営されてきました。単位ＰＴＡや東部・中部・西部の各圏域で解決できない広域的な課題などを研究協議する場となっています。当連合会は、未来を拓く子どもたちの自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動する力や豊かな人間性などの「生きる力」を育んでいきます。「生きる力」を育成するため、家庭、学校、地域社会が十分に連携を図り、活力あるＰＴＡ活動を鳥取県教育委員会を始めとする関係機関や諸団体の皆様との連携のもと推進していきたいと思います。

今年の夏は暑い夏でした。気温もさることながら、リオデジャネイロオリンピック・パラリンピック、夏の甲子園大会、鳥取県内でも開催された全国高校総体が同時期に開催された暑い夏。当連合会の会員校の関係者もこれらの大会に出場されましたが、各選手には今後の更なる活躍を期待しています。

今年6月19日に選挙権年齢を十八歳以上に引き下げる改正公職選挙法が施行され、これに伴い7月10日に全国の高校三年生の一部が選挙権を行使することになりました。十八歳と十九歳を併せると二百四十万人の新たな有権者が誕生したと言われています。この数は有権者の二パーセントですが、全国の二百四十万人もの新有権者数は、鳥取県人口の四倍を超えます。新世代の若者の投票が大きな力になることは社会から期待されているところです。各高校現場においては、文部科学省の通知を受け、多くの学校で模擬選挙や実践的な教育活動が積極的に行われました。当連合会においても、歴史的なこの年に、高校生はもとより、その保護者にも有権者意識を高めていただくために、「家族みんなで投票に行こう　会話深まる選挙の日」というキャッチフレーズを記した選挙啓発のぼり旗を作成しました。総務省は、参院選における十八歳と十九歳の選挙区選挙の投票率が46・78パーセントであったと発表。全体の投票率54・70パーセントより7・92ポイント低い数値です。ちなみに鳥取県内の十八歳と十九歳の投票率は45・74パーセントと33・26パーセントになりました。十八歳の投票率に着目すると全国51・28パーセントに対して鳥取県は45・74パーセントと全国を5・54ポイント下回る結果にとどまりました。十八歳より十九歳の投票率が低い理由としては、進学しても住民票を動かさずに地元を離れた者において不在者投票制度が利用しづらかったことなどが要因と指摘されています。地元に残る者も県外に転出する者も、国内外の社会の出来事に関心を持ち、自分たちの未来を選挙を通じて創り上げてくれることを心より願います。

現在、鳥取県は教育環境にも力が注がれ、教育現場でも優秀な人材を養成すべく様々な取り組みが実践されています。当連合会の運営が円滑に図られるよう、関係諸機関の皆様に引き続きのご支援とご指導をお願いしまして結びとさせていただきます。

新日本海新聞社提供

県立高校における外部支援者
～「チーム学校」を目指して～

鳥取県教育委員会
高等学校課

県立高校では、生徒の様々な課題に対応するため、心理や福祉等の専門スタッフを配置しています。

(1) スクールカウンセラー（SC）

不登校やいじめ等をはじめとする生徒指導上の諸問題について、その適切な対応及び未然防止のために、臨床心理・教育相談に関して専門的な知識・経験を用いて相談にあたるための非常勤職員です。

臨床心理士、臨床発達心理士、学校心理士などの資格を有する方を、原則、週1回の勤務で1回あたりの勤務時間を6時間として、県立高校に配置しています。平成24年度までは1回あたりの勤務時間は4時間でしたが、生徒の抱える課題の複雑化や勤務後の保護者の方へのカウンセリング対応などのため、平成25年度から6時間となりました。

今年度は、倉吉東高校定時制及び米子東高校定時制にも新たに配置し、教育相談員を含めて全県立高校の全課程に配置しました。

配置の成果として、専門的な立場から生徒、保護者、教職員への具体的な助言や専門機関の紹介などを適宜行っていただき、生徒の心身の安定に繋がっています。また、各心理検査などの結果の読み方や、気になる生徒についてどう対処していくのかを話し合う機会の増加にも繋がっており、生徒指導の在り方に少しずつ変化が生じています。

その反面、週1回の勤務のため、相談予約が集中すると十分な相談時間を取ることができないなどの課題もあります。

(2) スクールソーシャルワーカー（SSW）

いじめ、不登校、暴力行為、児童虐待などの生徒指導上の課題に対応するため、教育分野に関する知識に加えて、社会福祉等の専門的な知識や経験を用いて、家庭、友人関係、地域社会などの生徒が置かれている環境に働きかけ、福祉分野等の関係機関と連携を図りながら支援を行うための非常勤職員です。

社会福祉士、精神保健福祉士の資格を有する方を、原則、週29時間の勤務時間として、平成25年度に鳥取緑風高校と米子白鳳高校に、平成26年度には倉吉東高校に拠点校方式で配置されました。

しかし、生徒の抱える課題等が複雑化しており、今年度は新たに鳥取湖陵高校と境港総合技術高校に配置するとともに、前述の3校では週35時間の勤務時間としました。また、私立高校からの支援要請にも対応しています。SCの「聴く仕事」に対して、SSWは「つなぐ仕事」「黒子」と言われています。

配置の成果として、福祉事務所、市役所児童相談担当、児童相談所、指定介護支援事業所地域包括支援センターなど、教職員にとって名前は知っていても、これらの機関でどのような相談が可能かを具体的に知らなかった機関の支援を受けることができるようになってきています。また、医療ソーシャルワーカーの支援を受けるケースもあります。

その反面、県内にSSW養成機関等がないため人材不足でもあり、今後どのように養成するのかなどの課題もあります。

(3) 特別支援教育支援員

平成19年の学校教育法の改正に伴い、高校における特別支援教育の充実が図られるようになりました。本県高等学校における発達障がいと診断された生徒数は、平成18年度27人から平成27年度291人と年々右肩上がりで増加しています。

そのような状況を考慮して、発達障がいを含む様々な障がいのある生徒に対して、日常生活上の介助や学習活動上のサポート等を行う非常勤職員を配置しています。

今年度は5校に配置されており、管理職、特別支援教育担当者、担任等と連携のうえ、食事・更衣・教室移動の補助、発達障がい等の生徒に対する学習支援、健康・安全確保、周囲の生徒への障がい理解促進等を行っています。

(4) 就職相談支援員（キャリアアドバイザー）

新規の求人開拓、就職希望者との効果的な面接指導、インターンシップ受入れ企業等との連絡調整、キャリア教育プログラム作成補助等を行う非常勤職員です。

企業等で人事管理や管理職経験のある方をひと月17日配置し、生徒や教職員の支援等にあたっています。今年度は17校に配置されています。

配置の成果として、生徒の社会理解や自己理解が促進され、目的意識や積極性などが育成されています。

その反面、多様な生徒が在籍し、きめ細やかな指導が必要であったり、未就労の生徒に対する継続指導が必要であったりしています。

これらの外部支援者と協力し、「チーム学校」として生徒の皆さんが安心して学校生活を送れるよう取り組んでいます。

PTA活動紹介

智頭農林高等学校

1　学校の概要

本校は、本年度創立76年目を迎え、地域産業の担い手や社会の発展に貢献できる人材の育成を目標とする農林業を中心とした専門高校です。本年度より「ふるさと創造科」を立ち上げ、智頭町の支援の下に、地域のニーズに即した学科をスタートさせました。生産品を販売する「ちのりんショップ」を始め、林業後継者の育成事業、地元の伝統産業である藍染技術の継承など様々な取り組みがあります。

2　各専門部の活動内容

【研修部】

・進路研修会などの企画・立案・運営等を通して保護者の進路理解を深める活動を行っています。昨年は専門学校を中心とした視察、今年度は事業所を中心とした見学を行いました。特に鳥取自動車道智頭用瀬トンネル工事現場では、発破の瞬間や掘削中の最先端の見学ができ、参加した生徒・保護者から感嘆の声が上がりました。

【指導部】

・生徒が充実した高校生活を送ることができるように、生活面での見守りを中心に活動を行っています。年2回の「高校生マナーアップさわやか運動」への参加、また登校時の挨拶運動を行っています。

【広報部】

・ＰＴＡ会報「楓が原」の編集・発行を年3回行っています。この中では、ＰＴＡ活動の様子や学校行事、進路情報などの学校の様子を紹介しています。

【人権部】

・人権問題に関する学習を深める活動を行っています。今年度は日本ダウン症協会の方に来ていただき、ダウン症への理解を深めることができました。

本部役員主催として、例年11月に行われている「農林業生き生き祭り（農林祭）」では恒例のカレー販売を行っています。昨年度はこれに加えて大判焼きも出品し、大盛況でした。今年度はこの餡（あん）に学校で栽培した農薬化学肥料不使用の小豆を利用する予定です。ＰＴＡ役員以外の会員の方も多く参加されています。

農林祭カレー販売

本校ＰＴＡは、子どもたちが元気に学校生活を送れるよう、精いっぱい支援していきたいと考えています。

（文責 会長 綾木速人）

境高等学校

境高等学校は、西部地区では唯一の普通科単位制高校です。本年度は、一学年5学級の今の学校規模となって5年目の節目になります。

「質実剛健」「文武両道」を軸に、「21世紀を生きる社会人として、生きる力と豊かな人間性を育成する」ことが学校ビジョンです。

境高ＰＴＡとしては、「総務部」「広報部」「指導研修部」「人権推進部」の4部で、生徒、学校をサポートする活動を行なっています。そのいくつかを紹介します。

まずは、7月1日に行なわれた体育祭でのＰＴＡバザーの取り組みです。生徒の熱中症防止対策として、総務部が中心となって、飲み物、かき氷を提供しました。また、人権推進部は、毎年、煎餅、冷麺などの販売を実施しており、収益金は微力ながら被災地東北の復興につながればと願い、寄附させていただいています。

皆さんの日頃の行いが良いからでしょうか、天気に恵まれて最高の体育祭になりました。

次に学校規模が変わって5年の節目の年に硬式野球部が9年ぶり8度目の甲子園出場を果たしました。生徒の頑張りもありますが、それを支えた指導者、保護者の見えない力は計り知れません。境高ＰＴＡとしても、力の許す限り協力致しました。

校内の取り組み以外にも、境港の活性化策として、境港総合技術高校ＰＴＡ役員さんとボウリング大会を、毎年開催しております。

他にも視野を広げる取り組みとして、県外視察のＰＴＡ研修旅行や、人権推進部が企画する手話講座などの研修会も実施しています。また、広報部では、学校行事や生徒の活躍を分かりやすく、すべての保護者にお伝えできるように、ＰＴＡ会報を年4回発行したり、指導研修部では、生徒の登校指導や生徒と合同で学校周辺地域の清掃の取り組みをしたりしています。

※　※　※

高校で大切なことは、親離れ、そして子離れではないでしょうか。その中で、大人の階段を一歩一歩踏み出して行けるように見守ることが必要だと思います。

生徒一人ひとりが、21世紀を生きる社会人として、生きる力と豊かな人間性を育てることを第一に、ＰＴＡ活動を進めて行きます。

（文責 会長 佐々木博）

平成28年度 総会報告

本年度の定期総会は6月4日（土）鳥取県立倉吉体育文化会館において開催されました。勢川会長の挨拶の後、来賓の県教育委員会足羽参事監様からご祝辞をいただき、続いて「主権者教育の取組について」という演題でご講演いただきました。

その後、議事に入り、平成27年度の会務報告、会計決算及び28年度の事業計画、予算、並びに第66回全国大会会長表彰については、いずれも原案どおり承認されました。

また、高Ｐ連会費の値上げについて審議していただき、原案どおり決議されました。（図1）

さらに、18歳選挙権への取り組みについては啓発用のぼり旗の作成、ホームページへの啓発資料の掲載等について承認されました。「一つの取り組みから、大きな活動へ繋げてほしい」と活動に対する要望の声もありました。（図2）

最後に役員改選が行われました。平成28年度新役員は下表のとおりです。

図2　啓発用のぼり旗

鳥取中央育英高校

図1

平成30年度高Ｐ連会費（負担金）改定のお知らせ

現在、高Ｐ連の運営資金の一部として運営基金特別会計を取り崩していますが、今後も現状の経費で運営を行った場合、平成33年度には運営基金が枯渇する状況にあります。加えて、生徒数の減少に伴う負担金の減額、消費税増税に伴う支出額の増額が想定されます。

高Ｐ連が安定的な運営をしていくため、平成30年度から高Ｐ連会費を次のとおり値上げすることが総会にて決議されました。

全日制課程生徒	１人当たり	年間４００円 →	**５００円**
定時制課程生徒	１人当たり	年間２００円 →	**２５０円**
特別支援学校生徒	１人当たり	年間２００円 →	**２５０円**

平成28年度　県立高校ＰＴＡ会長・校長名簿

所属校	会長名	校長名	所属校	会長名	校長名
鳥取東	稲村　潤一	尾室　真郷	倉吉総合産業	高橋　義博	藤田　光司
鳥取西	勢川　洋之	河田　透	鳥取中央育英	池田　豊具	御船　斎紀
鳥取商業	岩﨑　伸一	坂林　豊人	米子東	山口　一樹	山根　孝正
鳥取工業	下多順一郎	小宮山信行	米子西	岩瀧　央子	依藤　典篤
鳥取湖陵	上山　弘子	谷　輝久	米子	谷口　弘毅	田中　宏
青谷	大角真一郎	大塩　朋	米子南	中田　宮枝	澤田　裕二
岩美	濵﨑　恵	中島　靖雄	米子工業	新　恵子	友松　文嗣
八頭	寺谷　光永	橋本代里子	境	佐々木　博	田淵　直記
智頭農林	綾木　速人	濱崎　公嗣	境港総合技術	渡　祐一	安藤　順一
倉吉東	入澤　孝好	河田　雅志	日野	田邊　秀幸	永野　智之
倉吉西	加藤　一巳	稲毛　靖	鳥取盲	山根　千歳	竹信　純一
倉吉農業	梅津　博文	田中　正士	鳥取聾	清水　智子	三王寺孝子

平成28年度　県高Ｐ連役員

役職	氏名	所属校
会長	勢川　洋之	鳥取西
副会長	髙橋　義博	倉吉総合産業
〃	山口　一樹	米子東
参与（校長協会長）	依藤　典篤	米子西
〃（〃東部会長）	谷　輝久	鳥取湖陵
〃（〃中部会長）	河田　雅志	倉吉東
〃（〃西部会長）	安藤　順一	米子工業
参与	河田　透	鳥取西
〃	藤田　光司	倉吉総合産業
〃	山根　孝正	米子東
監査	上山　弘子	鳥取湖陵
〃	加藤　一巳	倉吉西
〃	渡　祐一	日野
中・四国高Ｐ連代表役員	勢川　洋之（理事）	鳥取西
〃	稲村　潤一	鳥取東
〃	岩瀧　央子	米子西
〃	荻原　恵子	高Ｐ連事務局

平成28年度　事業計画

1　各高等学校ＰＴＡの連絡提携
（1）総会
（2）役員会
（3）通知・資料提供による情報の交流、協議決定事項の推進
（4）会報の発行、各校 PTA 会報の交換斡旋
（5）その他

2　県・地区ＰＴＡ活動の充実・展開
（1）研修活動の推進（県・地区高校ＰＴＡ連合会研修会、県ＰＴＡ研究大会、県外への調査、研修）
（2）青少年非行防止運動のための協力・実践
（3）関係団体・組織との提携活動
（4）その他

3　県青少年健全育成・生涯学習諸活動への積極的参加
（1）青少年育成鳥取県民会議
（2）人権尊重社会を実現する鳥取県研究集会
（3）社会を明るくする運動
（4）生涯学習関係諸集会、大会
（5）全国高Ｐ連賠償責任補償制度への加入推進
（6）その他

4　県外ＰＴＡ諸事業の振興・参加
（1）中・四国地区高Ｐ連、全国高Ｐ連との提携およびその事業の推進
（2）中・四国地区高Ｐ連、全国高Ｐ連大会における研究発表および参加
（3）他県高Ｐ連、他地区高Ｐ連との情報交換等協力関係の維持推進

5　県内関係諸団体・組織との連携交流
（1）県高等学校長協会
（2）県教育委員会
（3）県ＰＴＡ協議会
（4）その他

平成28年度　収支予算書

収入の部　（単位：円）

科目	本年度予算額 (A)	前年度予算額 (B)	増減 (A)－(B)
負担金	4,649,000	4,715,800	△ 66,800
補助金	1,216,000	1,266,000	△ 50,000
前年度繰越金	944,513	651,136	293,377
繰入金	2,000,000	2,000,000	0
雑収入	487	364	123
合計	8,810,000	8,633,300	176,700

支出の部　（単位：円）

科目	本年度予算額 (A)	前年度予算額 (B)	増減 (A)－(B)
会議費	240,000	236,000	4,000
事業費	2,194,000	2,312,000	△ 118,000
研修費	650,000	750,000	△ 100,000
地区研修活動費	810,000	810,000	0
活動費	88,000	88,000	0
広報費	621,000	639,000	△ 18,000
事業事務費	25,000	25,000	0
運営費	5,085,000	5,312,000	△ 227,000
人件費	3,264,000	3,406,000	△ 142,000
旅費	910,000	931,000	△ 21,000
運営事務費	185,000	247,000	△ 62,000
借用料	190,000	175,000	15,000
通信運搬費	180,000	180,000	0
渉外費	30,000	30,000	0
社会保険料	306,000	323,000	△ 17,000
雑費	20,000	20,000	0
負担金	325,000	323,000	2,000
租税公課等	90,000	90,000	0
備品費	0	0	0
退職積立金	100,000	100,000	0
日韓交流事業	0	80,000	△ 80,000
予備費	776,000	180,300	595,700
合計	8,810,000	8,633,300	176,700

註）繰入金内訳･･･特別会計　1,200,000円、　団体保険手数料　800,000円

第58回中・四国地区高Ｐ連大会 香川大会報告

平成28年7月15日（金）、香川県高松市において、『発信！ＰＴＡとふるさとのソコヂカラ～空と海オリーブのくにから～』を大会テーマに、中・四国地区会員1900名を超える参加により盛大に開催されました。（本県からは109名）

午前は、『違うから面白い、違わないから素晴らしい』と題し、世界的な演出家、宮本亜門氏による講演がありました。自分の人生を振り返り、小さい頃から歌舞伎に興味を持ち、仏像などの日本文化に大きく魅かれていた少年が、高校生の頃には10カ月の間「引きこもり」になったこと、そしてロンドンへ渡り苦労をしながら現在リーダーと言われるようになるまでの話を、エピソードを交えながら聞かせていただきました。「クリエーション術」や「コミュニケーション術」について自身の言葉で紹介され、「周りと共鳴するために、いろいろな意見を聞いたり、批判やダメ出しをしない」など人間関係に重要な話だったと思います。

午後の研究協議では三校の発表がありました。『学校教育とＰＴＡ』では「地域で織り成すふれ愛まつり」と題し、地域のイベントなどに積極的に参加している様子を発表。『進路指導とＰＴＡ』では「社会に求められる人づくり」と題し、ＰＴＡや同窓生による模擬面接の実施や探究型人材育成（イノベーションＫＴ）への取り組みなどを発表。『ボランティアとＰＴＡ』では「被災地交流を通して」と題し、【とらすとＫ】同好会が活動している地域でのボランティア活動や神戸・宮城の被災地の皆さんとの交流活動について発表があり、参加者と活発な意見交換がありました。

さらに感激させられたのが香川県内の『高校生による発表』です。琴平高校なぎなた部による「リズムなぎなた」では部員同士の信頼の強さを感じ、坂出第一高校食物科料理研究部による「料理パフォーマンス」では将来のシェフたちがスピード感とチームワークのあふれた見事な船盛料理を作ってくれました。最後に、全国大会二連覇に挑戦する高松商業高校書道部が、本大会のテーマに沿ったふるさとを想う心を大きな用紙いっぱいに書き記した「書道パフォーマンス」に会場の盛り上がりは最高潮に達しました。

閉会式では次期開催地の山口県へとバトンが渡され、大会は閉幕しました。

（文責 高Ｐ連副会長 山口一樹）

講演風景

第66回全国高Ｐ連大会 千葉大会報告

平成28年8月25日（木）～26日（金）に千葉県千葉市の幕張メッセをメイン会場として全国高Ｐ連会員約一万人の参加者で盛大に開催されました。

鳥取県からは総勢70名の参加があり、みなさんが熱心に研修されていました。大会のテーマは、「再発見！愛」～今こそ信じよう愛の絆～として、「学校」、「家庭」、「地域社会」を愛すること、つまり優しさ、思いやりを今一度見つめ直すきっかけになればという思いがこめられています。

■大会第一日目

開会式に引き続き、千葉敬愛短期大学学長の明石要一氏による基調講演があり、現代社会が抱える危うさとして、地域のつながりの崩壊、子どもたちのコミュニケーションの不足などを訴えておられました。また、ぜひ、学校の風、家庭の風、地域色を考えてほしいとも言っておられました。

午後からは、分科会として、七分科会あり、私は第三分科会の「生徒指導とＰＴＡ」～再発見！愛思いやりのある「豊かな心」を育む生徒指導～　に参加してきました。各校がＰＴＡで取り組んでいる事例発表、意見交換があり、ＰＴＡ活動がいかに子どもたちに思いやりのある豊かな心を育むのか、そのためには保護者が積極的にＰＴＡ活動に参加して、事業を理解していただくことが大切ではないかという報告がありました。また、助言者の方からは、保護者や先生とのコミュニケーションの大切さ、コミュニケーションをとることで子どもたちは保護者、先生から大切にされているということを見ている、そのことが生徒指導につながっていくのではないかという意見がありました。

■大会第二日目

高校生によるアトラクションのあと、記念公演として、女優の市原悦子氏が戦前・戦後の生活、学生の頃の話をされて、最後にうっとりとするような朗読がありました。

閉会式では、次期開催地の静岡県へバトンが渡されて大会は成功裡に幕を閉じました。

この全国大会を通して、人と人とのつながりの大切さを再確認する必要があるのではないかと感じました。子どもたちがコミュニケーションを上手く取るにはどうすればよいのか、地域のコミュニティをどのように構築していくのかについて考えることが子どもたちの自立を促していくことになるのではないかと思っています。

（文責 高Ｐ連副会長 髙橋義博）

■全国高Ｐ連会長表彰■

開会式の後、表彰式が執り行われました。鳥取県からの受賞者（校）は次のとおりです。長年ＰＴＡ活動に御尽力され、素晴らしい成果をあげておられることが、多くの方々に高く評価された結果と存じます。受賞、誠におめでとうございます。

◆個人表彰

南　雅樹 氏（前米子東高会長）
- 高Ｐ連副会長　２年
- 地区高Ｐ連会長　２年
- 単Ｐ会長　２年

古川厚子 氏（前鳥取中央育英高会長）
- 単Ｐ会長　１年
- 〃 副会長　２年

◆団体表彰

倉吉東高等学校育友会
鳥取西高等学校ＰＴＡ

◆役員等表彰

寺谷節男 氏（前県高Ｐ連事務局長）

■ＰＴＡ広報紙展示■

鳥取西高等学校　「西高だより」
八頭高等学校　「八頭高だより」

平成29年度各種研究大会等の予定

○鳥取県高等学校ＰＴＡ連合会総会
６月　中部地区

○中国・四国地区高等学校ＰＴＡ連合会大会
７月14日（金）　海峡メッセ下関

○全国高等学校ＰＴＡ連合会大会
８月24日（木）、25日（金）
静岡県小笠山総合運動公園エコパ

○鳥取県高等学校ＰＴＡ指導者研究大会
11月　東部地区